

調査の概要

1 調査の目的

全国の病院で訪問看護がどの程度広がり、どのように行われているかについての実態を把握し、これからの訪問看護のあり方を考え、また社会保険診療における訪問看護料（一般診療）新設及び退院患者継続看護・指導料（老人保健）の枠の拡大を求めるための資料とする。さらに、訪問看護実施病院の名簿を作成することを意図した。

2 予備調査について

本調査に先立って、訪問看護を実施している病院名を把握するための調査を行った。

1) 調査対象

「病院要覧，1983年版」（医学書院）に掲載されている一般病院。但し日赤，済生会，厚生団，全国社会保険協会連合会，厚生省立の病院，計464についてはあらかじめ訪問看護を実施しているか否かについての情報を得ることができたので除いた。調査対象となったのは7,824病院。

2) 調査方法

総婦長宛往復はがきによる記名アンケート調査。

3) 調査の実施期日

昭和60年6月～8月。

4) 回収

回収数4,108票，回収率52.5%。

5) 調査結果

表1のとおり。

3 本調査について

1) 調査対象

何らかの方法で訪問看護を実施しているとの情報の得られた一般病院597。その内訳は次のとおり。

① 予備調査で「病院職員が勤務時間内に業務として実施している」と回答した病院……509

② 全国ホームケア研究会の昭和54～55年の調査にもとづいて作成された訪問看護実施病院一覧表に掲載されている病院のうち，今回の予備調査で回答のなかったもの……30

③ 日赤，済生会，厚生団本部より「訪問看護を実施している」との回答を得た病院……58

2) 調査方法

総婦長宛郵送による記名アンケート調査（無記名の回答も可とした）。

3) 調査の対象期日及び実施期日

昭和60年6月現在の状況について調査し

表1 予備調査結果

訪 問 看 護 実 施 状 況	病院数
病院職員が勤務時間内に業務として行っている	509
病院として実施することが決定している（3年以内に限る）* （再）現在は病院職員がボランティアとして実施	180 (18)
実施計画はあるが、3年以内実施の見込はない （再）現在は病院職員がボランティアとして実施	404 (30)
病院職員が業務としてではなく、ボランティアとして行っている （実施計画のあるものは除く）	88
将来実施したい、検討中**	62
何らかの訪問活動をしている（特殊ケースのみ、試みとして、事例研究として、必要に応じてまれに、往診時に看護指導をする、など）**	80
実施していない（上記のいずれにも該当しない）	2,718
無 回 答	27
病院が転居、廃院など	40
計	4,108

注 * 「決定には到っていないが、3年以内実現の見込あり」と書き込みのあったものを含む
 **アンケートの選択肢にはなかったが、回答者の書き込みにより集計時設定した項目である
 付：予備調査の対象から除いた464病院の内訳は、訪問看護実施58、実施していない406である

た。調査票は7月末に郵送され、回収の最終切を10月20日とした。

4) 回収

回収数は369、回収率66.3%。うち有効票は321、有効回収率は46.1%であった。

なお無効票は、「訪問看護は実施していない」、「訪問看護といえるほどのことはしていない」あるいは「自分の施設の訪問活動は、この調査票では答えにくい」などの理由で、ほとんどあるいは全く無回答のまま返送されたものである。

無効とした75票の内訳は次のとおり。

- 「訪問看護は実施していない」などの理由で無回答……38
- ボランティアとして、特殊なケースのみ、あるいはテスト的に実施……15

○ 精神科、母子、あるいは療育に限定された訪問で、この調査票では答えにくい……16

○ 看護婦の往診同行であり訪問看護とはいえない……6

なお、精神科、母子のみの訪問看護でも無回答項目の少ない調査票は有効とした。

4 未回答病院への問い合わせについて

本調査の対象となったのは、「訪問看護を実施している」との情報の得られた病院であるが、回答のなかった病院は、実際には訪問看護をしていないのではないか、そのために回答をしなかったのではないか。この点をはっきりさせるために、往復ハガキによる問い合わせを行った。その結果、回答

病院における訪問看護の実施状況調査

— ごあいさつとお願い —

総婦長殿

1985年8月

社団法人 日本看護協会

本年6月には、訪問看護を実施しているか否かの問い合わせにご返答いただき、ありがとうございました。このたび、訪問看護を実施しているところのご回答をいただきました病院及び他の方法で実施していることを知りえた病院を対象に、訪問看護の実施状況調査を行なうことになりました。

この調査の目的は、全国の病院で訪問看護がどのように行われているか、またどの程度広がっているかについての実態を把握することにあります。そして調査結果は統計的にとりまとめて、社会保険診療における訪問看護料（一般診療）新設、及び継続看護指導料（老人保健）の枠の拡大を求める資料として役立てたいと考えております。また、今後訪問看護の質の向上のために各病院間で情報交換や相互連絡ができるように下記の事項を掲載した名簿を作成したいと考えております。そこで、この名簿に貴病院の名前を掲載させていただくことをご了承いただけますよう、お願いいたします。尚、病院名を掲載することが不都合な場合は無記名でお答え下さい。

お忙しいとは存じますが、8月末日までにご返送下さいますようお願い申し上げます。

名簿掲載項目

病院名、設置主体、住所、電話番号、病床数、訪問看護担当部署
訪問看護開始年、昭和60年6月の総訪問回数

照会先 日本看護協会調査研究室
〒150 東京都渋谷区神宮前5-8-2
(電話) 03(400)8331

設置主体及び病院名 _____

住 所 _____

電話番号 _____

該当する選択肢の番号に○をつけて下さい。□には数字を、()の中はできるだけ具体的に記入してください。特にことわりのない場合、今年の6月現在の状況についてお答え下さい。

訪問看護の実施状況についておたずねします。

Q1 訪問看護を専門に行っている部署がありますか。

- | | | |
|-------|---|------------------------------------------------|
| 1. ある | → | SQ 名称を具体的に記入して下さい。
() |
| 2. ない | → | SQ 担当部署を具体的に記入して下さい。
(例 ○○外来 ○○病棟など)
() |

Q2 訪問看護は勤務扱いでなされていますか。

1. 勤務時間内で行っている (一部残業になる場合も含む)。
2. ほとんど残業扱いで行っている。
3. 一部業務(勤務時間内あるいは残業扱い)として、一部私的時間でやっている。
4. すべて私的時間でやっている。
5. その他 ()

Q3 いつから訪問看護を実施していますか。但し、ボランティアとして行っていたあるいは、ごく少数の対象者について、テスト的に実施していた期間は除いて下さい。

昭和 □□ 年 □□ 月より

Q4. 実際に訪問看護を行っている看護職は何人ですか。それは訪問看護の専任者ですか。それとも他の業務を兼務している人ですか。職種別に人数を記入して下さい。

職能別 専任・兼任別	保健婦	助産婦	看護婦	准看護婦	計
外来業務との兼務	人	人	人	人	人
病棟勤務との兼務	人	人	人	人	人
その他の業務との兼務 (注 参照)	人	人	人	人	人
訪問看護専任	人	人	人	人	人

注 外来業務とは別に行う保健指導、在宅療養指導を含む

Q5 今年の6月中に訪問した対象者は何人ですか。また6月の総訪問件数は何件ですか。

6月の対象者数

人

6月の総訪問件数

件

Q6 6月の場合、最も頻繁に訪問したケースの訪問回数は何回ですか。

回

Q7 訪問看護で患者の家に滞在する時間はおよそどの位ですか。最も平均的なケースについてお答え下さい。

1. 30分未満
 2. 30分～1時間未満
 3. 1時間～2時間未満
 4. 2時間以上

Q11 貴病院の訪問看護では、どのような内容の看護活動を行ないますか。該当するものすべてに○をつけて下さい。そのうち頻度の少ないものを下欄に記入して下さい。

1. 血圧・尿量・喀痰などの測定方法の指導及び観察
2. 食事療法の指導
3. 服薬指導
4. 病状の説明・病状の観察の仕方の指導及び病状に応じた療養生活指導（1～3以外のもの）
5. 医療的処置の実施（注参照）
6. 医療的処置の指導（注参照）
7. 機能回復訓練の実施及び指導
8. 呆けへの対応についての指導
9. 医師との連絡・相談
10. 医師への情報提供や相談の仕方の指導
11. 基本的生活行動（食事、排泄、清潔、着衣、睡眠）に関する介護技術の指導
12. 基本的生活行動に関する、直接的、具体的な看護の提供
13. 介護用品の紹介や工夫の仕方の指導
14. 家族間の諸問題に関する相談・助言
15. 家族の健康管理
16. 社会資源の導入に関する助言及び連絡
17. その他（)

注 「医療的処置」とは、
 注射、検査、ネブライザー使用、吸引、酸素吸入、傷の手当て、チューブ類の
 チェックと交換、人肛門ケア、気管切開ケアなどをさす。

頻度の少ないもの

--	--	--	--	--

Q12 6月中に訪問した対象者のうち「医療的処置」を、訪問看護婦の指導で家族が行っている患者及び訪問看護婦自身が行っている患者はそれぞれ何人いますか。

家族が行っている

人

訪問看護婦が行っている

人

家族及び訪問看護婦が行っている

人

次に対象者についてお尋ねします。

Q13 6月中に訪問した対象者数を年齢別にお答え下さい。

1. 65歳未満	人
2. 65歳～70歳未満	人
3. 70歳～80歳未満	人
4. 80歳以上	人
計	人

Q14 6月中に訪問した対象者を、訪問開始直前の受診状況別にお答え下さい。

1. 当院に入院していた患者(入院1カ月未満)	人
2. 当院に入院していた患者(入院1カ月以上)	人
3. 当院に通院あるいは当院の医師が往診していた患者	人
4. 他院に入院していた患者(入院1カ月未満)	人
5. 他院に入院していた患者(入院1カ月以上)	人
6. その他()	人
計	人

Q15 6月中に訪問した対象者を、最後の退院から6月末までの訪問看護継続期間別にお答え下さい。

1. 訪問看護開始に係る病状では入院していない	人
2. 退院後3カ月未満	人
3. 退院後3カ月以上	人
4. 6月末日現在入院中	人
計	人

Q16 6月中に訪問した対象者は、どのような疾病の人ですか。該当するものすべてに○をつけて下さい。また、多い順に3つまで選んで下欄に記入して下さい。

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1. 悪性新生物 | 2. 糖尿病 |
| 3. 老人性痴呆 | 4. 脳血管障害(含脳卒中後遺症) |
| 5. 高血圧症(4を除く) | 6. パーキンソン病 |
| 7. 神経系難病(6を除く) | 8. 心臓とその血管系の障害 |
| 9. 肺炎 | 10. 呼吸器系疾患(9を除く) |
| 11. 消化器系疾患 | 12. 腎機能障害 |
| 13. 筋骨格系及び結合組織の疾患 | 14. 精神病 |
| 15. その他 () | |

1 位	2 位	3 位

Q17 6月中に訪問した対象者は、どのような状態の人ですか。該当するものすべてに○をつけて下さい。また多い順に3つまで選んで下欄に記入して下さい。

- | |
|--------------------------------------|
| 1. 食事療法を継続している。 |
| 2. 服薬指導を必要とする。(注参照) |
| 3. ガーゼ交換を必要とする傷や褥瘡がある。 |
| 4. チューブ類や器具を装着している。 |
| 5. 進行性の疾病、または症状が変動しやすい疾病をもっている。 |
| 6. 予後1カ月以内と診断されている。 |
| 7. 定期的な皮下注射、筋肉注射、点滴を必要とする。 |
| 8. ネブライザー、吸引、酸素吸入などを常時、または時に行うことがある。 |
| 9. 病院リハビリ部門で、機能回復訓練プログラムが組まれている。 |
| 10. その他 () |

注 病状に合わせて頓服したり、服用する量を変える必要がある。あるいは、副作用の出やすい薬を使用している場合をさす。

1 位	2 位	3 位

Q 18 6月中に訪問した対象者の医師受診はどのようになされていますか。該当するものすべてに○をつけて下さい。また、多い順に3つまで選んで下欄に記入して下さい。

- | |
|-----------------------------------------|
| 1. 当院の医師が往診している。 |
| 2. 当院に外来通院している。 |
| 3. 当院への外来通院と近医への受診(通院、往診等)が平行してなされている。 |
| 4. 近医(当院外)の主治医に受診している(3を除く)。 |
| 5. 往診も通院もなされていないが、訪問看護婦が当院の医師と連絡をとっている。 |

1 位	2 位	3 位

Q 19 過去1年間(昭和59年7月～60年6月末)に、訪問看護の対象となっていて死亡した人は何人いましたか。在宅での死亡、入院先での死亡別にお答え下さい。

在宅での死亡

	人
--	---

入院先での死亡

	人
--	---

次に経済的な面についてお尋ねします。

Q 20 訪問看護による病院収入としてどのようなものがありますか。該当するものすべてに○をつけて下さい。

- | |
|-----------------------------------------------------------------------|
| 1. 患者から訪問看護料をとっている(1回に付 <input style="width: 50px;" type="text"/> 円)。 |
| 2. 市町村から委託費をもらっている。 |
| 3. 継続看護指導料(老人保健点数)を請求している。 |
| 4. その他の名目で保険請求している(名目 <input style="width: 100px;" type="text"/>)。 |
| 5. その他の収入がある(<input style="width: 100px;" type="text"/>)。 |
| 6. 一切収入はない。 |

Q 2 1 6月について、退院患者継続看護・指導料（老人保健点数）の請求はなされましたか。

1. 請求しなかった	2. 請求した
------------	---------

→SQ なぜですか。

1. 該当者(70歳以上・入院1カ月以上・退院後3カ月まで)がなかった。(注参照)

2. 該当者はいたが、手続きが面倒な割に料金が低いから。

3. 理由不明

→SQ 保険請求した対象者の人数と件数をお答え下さい。

保険請求人数

人

保険請求件数

あわせて
件

注 65歳以上70歳未満でも障害の程度により、老人保健の対象になることもある。

Q 2 2 訪問の交通費は患者が負担しますか。

1. 患者が負担する。

2. 患者が負担するが病院の持ち出しもある。

3. 患者負担は一切ない。

SQ では交通はどのようにしていますか。

1. 交通費のかからない範囲で行っている。

2. 病院の車を使っている。

3. 病院が交通費を負担する。

4. その他 ()

Q 2 3 貴病院で訪問看護のための経費として予算化されているものがあれば、その費目と金額をご記入下さい。

昭和60年度年間予算

費 目	金 額

問24, 25, 26, 27, 28は訪問看護を実施している方がお答え下さい。

Q24 訪問看護をすすめる上で、どんな問題を感じていますか。また、どんなことで困っていますか。出来るだけ具体的に記入して下さい。

()

Q25 訪問看護をすすめる上で、困った時に相談助言を求める人がいますか。それは誰ですか。

1. いる
2. いない

→SQ それは誰ですか。

1. 院内の人 ()
2. 院外の人 ()

Q26 訪問看護をはじめるにあたって、研修を受けましたか。

1. 受けた
2. 特に受けていない

→SQ どこで受けましたか。

1. 院内
2. 院外 (どこで)

→SSQ 費用はどこが負担しましたか。

1. 病院
2. 自己負担
3. その他 ()

Q27 訪問看護を続けていく上での継続研修はどのようにしていますか。出来るだけ具体的に記入して下さい。

()

Q28 今後どのような内容の研修を希望しますか。出来るだけ具体的に記入して下さい。

()

29, 30, 31, 32 は、総婦長又は訪問看護を実施している部署の責任者がお答え下さい。

Q29 貴病院で、訪問看護開始のきっかけを作った主たる人は誰ですか。また、原動力となった主たる人は誰ですか。きっかけを作った人に○を、原動力となった人に◎をつけて下さい(各々1つだけ。訪問看護開始当時の職位でお答え下さい)。

- | | |
|------------|-----------------|
| 1. 病院理事 | 2. 院長 |
| 3. 医師 | 4. 看護部の人(総婦長など) |
| 5. 病棟看護婦 | 6. 外来看護婦 |
| 7. その他 () | |

Q30 貴病院で訪問看護を開始した理由は、何だったでしょうか。該当するものすべてに○をつけて下さい。その中で、最も中心的な理由を1つだけ選んで◎をつけて下さい。

1. 入院治療を要するほどではないのに退院できない患者が増えたため。
2. 入院待機者が多いので、ベッド回転率を高めるため。
3. 入退院をくり返す患者が多いため。
4. 往診、通院患者の在宅療養継続の可能性を高めるため。
5. 在宅療養を希望する患者が増えたため。
6. 病院の社会的信用を高めるため。
7. 退院患者継続看護・指導料(老人保健)が点数化されたため。
8. その他 ()

Q31 貴病院の訪問看護にはどのような特徴がありますか。特徴と思われるものがあれば、3つまで列挙して下さい。

()

Q32 現在訪問看護を行う上で、どんな問題を感じていますか。また、どんなことに困っていますか。出来るだけ具体的に記入して下さい。

※ 病院内での訪問看護の位置づけ

()

※ 経済的な問題

()

※ 医師との関係

(

)

※ 訪問看護者の確保と育成

(

)

※ 保健婦や他機関との連携上の問題

(

)

※ その他

(

)

最後に、病院全体のことについておたずねします。

F 1 経営主体

1. 国 立	2. 自治体	3. 日 赤
4. その他の公的病院	5. 学校法人	6. 公益法人
7. 医療法人・個人	8. その他 ()	

F 2 許可病床数

床

F 3 基準看護

1. 特二類 (2.5 : 1)
2. 特一類 (3 : 1)
3. 一 類 (4 : 1)
4. 基準看護はとっていない (特例許可老人病院を除く)
5. 特例許可老人病院

F 4 6月末日の看護、その他の要員数

保 健 婦	<input type="text"/>	人
助 産 婦	<input type="text"/>	人
看護婦(士)	<input type="text"/>	人
准看護婦(士)	<input type="text"/>	人
看護業務補助者	<input type="text"/>	人
医療社会事業従事者	<input type="text"/>	人

F 5 6月の患者数

在院患者延数	<input type="text"/>	人
月末在院患者数	<input type="text"/>	人
新入院患者数	<input type="text"/>	人
退院患者数	<input type="text"/>	人
外来患者延数	<input type="text"/>	人

F 6 6月末日の入院患者の平均年齢

<input type="text"/>	歳
----------------------	---

F 7 貴病院の医師の往診

<p>1. 原則としてしていない</p> <p>2. している</p>

<p>長い時間、どうもありがとうございました。 心からお礼を申し上げます。</p>
